

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語科】

1. 対象 6年生

- ・読書が好きだと感じている児童は3名、苦手だと感じている児童は6名、どちらでもないと答えた児童は8名である。並行読書を行ったり、学んだことを生かして他作品を読んだりする経験は少ない。
- ・「帰り道」の学習では、場面を対比させて読むことは得意としている子は多かった。しかし、言葉から登場人物の気持ちや様子を見つけて話す活動を苦手としている子が多かった。
- ・単元が始まる2週間前から、宮沢賢治の様々な作品を読んだり、読み聞かせを聞いたりしている。

2. 単元名 「宮沢賢治の他作品を読み、心ひかれた表現をポスターで伝えよう」（やまなし）（全9時間）

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	「やまなし」や、宮沢賢治の他作品から、比喩や反復などの表現を見つけたり、表現の工夫に気付いたりすることができる。
思考力、判断力、表現力等	五月と十二月の場面の物語の世界を具体的に想像したり、作者の独特の色彩豊かな表現の効果を考えたりすることができる。
学びに向かう力、人間性等	物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりして、物語と他作品を重ねて読み、作品の世界の魅力について伝え合おうとしている。

4. 本時の目標

既習事項を生かして他作品を読み、作者の独特な表現・生き方や考え方が表れている表現を見付けることを通して、数々の作品に込められた作者の思いについて自分なりの考えをもつことができる。

5. 授業展開【本時・単元】

解決したい課題や問い

単元を貫く課題「宮沢賢治の他作品を読み、心ひかれた表現をポスターで伝えよう」

本時の課題「宮沢賢治は数々の作品から、何を伝えたかったのだろうか。」

1 「やまなし」で学んだ作品世界を味わうための読み方を使って、宮沢賢治の他作品を読む。

①他作品には、どのような「みやぎワード」があるのだろうか。

②他作品にも、作者の生き方や考え方が表れている表現はあるのだろうか。

※①②の課題については、自分の選んだ作品や興味に応じて、自分で選択しながら学習をする。

③数々の作品から作者が伝えたかったことについて、自分なりの考えを書く。

考えるための材料

<p>(1)「みやぎワード」 (宮沢賢治の独特な表現) が書かれたカード</p> <p>①言葉の響きで様子を表す表現 (オノマトペ) 例 かぶかぶ 水はサラサラ鳴り</p> <p>②色の表現(色彩語) 例 日光の黄金</p> <p>③例えの表現 例 ラムネのびんの月光</p> <p>※宮沢賢治の他作品を読むときや、今後の読書活動で他の作者の作品を読むときにも、作者独特の表現に着目して作品の世界を味わうことができるようにするために、子どもたちにとって印象に残る「みやぎワード」という言葉で表現した。</p>	<p>(2)宮沢賢治の他作品 (並行読書、読み聞かせ) 「注文の多い料理店」 「風の又三郎」 「グスコーブドリの伝記」 等</p> <p>※学校図書館司書と連携し、単元が始まる2週間前には並行読書が開始できるように、宮沢賢治の作品を準備する。</p> <p>※この作品のことについて話したいという気持ちをもつことが主体的、対話的な学びにつながると考えている。十分な読書時間を確保し、様々な作品に触れて教材と対話できるようにする。そして、読んだ作品から自分のお気に入りの作品を見つけることができるようにする。また、他作品と関連付けることができるため、対話が生まれたり深い学びへつなげたりすることができると思った。</p> <p>※どの児童も、教材や友達との対話ができるように配慮する。そのために外国籍児童には、母国語で書かれた「雨ニモ負ケズ」の詩を用意する。</p> <p>※物語を読むことに抵抗がある児童のために、宮沢賢治の詩の本を用意する。</p>	<p>(3)前時までに使用したワークシート</p> <p>①宮沢賢治の生き方や考え方について考えたときに使用したワークシート (以下の3つを一体化したシート)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 宮沢賢治の年表 2 「雨ニモ負ケズ」の詩 3 「永訣の朝」の詩 <p>※第2時で、「イーハトーヴの夢」と関連付けながら、賢治の生き方や考え方を探った。</p> <p>②他作品を読んで「心ひかれた表現」と「その表現から感じたこと」についてまとめたワークシート</p>
<p>想定される活動</p>		
<p>自分たちで見つけた「みやぎワード」を確認しながら、宮沢賢治の他作品を読み、特徴的な表現の仕方や言葉の使い方を見付ける。</p>	<p>様々な作品から、「みやぎワード」や、生き方や考え方が表れている表現を見付ける。</p>	<p>生き方や考え方が表れている表現を探すときに、他の作品や資料と関連付けて考える。</p>

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

①「やまなし」の学習で学んだ、物語の読み方を振り返る。【5分】

- 1 「みやぎワード」に着目して読む。(ア)言葉の響き (イ)色の表現 (ウ)例えの表現
- 2 作者の生き方や考え方と関連付けて読む。
※やまなしで習得した物語の読み方を、他作品でも活用することを確認する。

②本時の課題を確認する。

◎「宮沢賢治は、数々の作品を通して何を伝えたかったのだろう。」

③自分が選んだお気に入りの物語から、「みやぎワード」や生き方や考え方が表れている表現を見付ける。(1人学び)【15分】

やまなしで習得した物語の読み方で、他作品を読む。

- 1 他作品から、「みやぎワード」を見付ける。
- 2 生き方や考え方が表れている表現を見付ける。

※1、2の課題については、自分の選んだ作品や興味に応じて、自分で選択しながら学習をする。

※外国籍の児童には、当該児童の母国語で書かれた「雨ニモ負ケズ」を読んで考えることができるようにする。また、タブレットの翻訳機能を使用して、交流できるようにする。

※子どもの学習の進め方を確認し、同じ本を選んだ友達と対話する必要があると感じた場合は、声をかけて、意図的に対話の場を設定する。

※本時までには並行読書を行い、自分のお気に入りの作品を決めておく。

④違う本を選んだ友達と対話する。

(3人グループでの対話を2回行う。2回目はメンバーを入れ替える。)【10分】

⑤賢治は様々な作品を通して、何を伝えたかったのかを考える。

(3人グループでの対話を2回行う。2回目はメンバーを入れ替える。)【10分】

※第2時で学習したワークシート(宮沢賢治の年表、「永訣の朝」「雨ニモ負ケズ」を一体化したもの)や「イーハトーヴの夢」を準備し、既習の学習と関連付けながら考えることができるようにする。

※自分なりに捉えた賢治が伝えたかったことをワークシートに記入する。

- ・人のために生きることの大切さを伝えたかったのだと思う。
- ・独特な表現から、いろいろなことを想像してほしい。
- ・自然の様子を表すオノマトペが多かったから、自然の美しさや素晴らしさを伝えたかったのだと思う。
- ・様々な作品を読むと、同じキーワードがでてきたり、似ている表現があった。たくさん本を読むとさらに、宮沢賢治の本を読むことが楽しくなってくる。そうやって、たくさん本を読んで人々に想像する心や人を思いやる心を育てたかったと思う。

⑥振り返りをする。【5分】

- ・宮沢賢治の作品は、いろいろな作品に「みやぎワード」や作者の考えが表れている言葉があった。
- ・宮沢賢治以外の作者にもその作者なりの表現があるのかもしれない。作品を読むときには、表現の工夫に注目して読んでみよう。
- ・今度は、心ひかれる表現を紹介するポスターを作ろう。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・宮沢賢治の作品には、「やまなし」だけではなく、様々な作品に「みやぎワード」があったよ。
- ・「グスコブドリの伝記」では、「やまなし」と同じように、「風がどうとふいてきて」や「風がざわざわ」など特徴的な表現の仕方や言葉の使い方をしている文があったよ。風が突然力強くふいてくる様子やたくさんの草が揺れて会話をしているような様子が伝わってくるよ。
- ・宮沢賢治の作品には風がふく様子を様々な表現で表していたよ。
- ・色彩語に着目して読んでいくと、赤い色は、良くないことがおきる場面で使われていると感じがしたよ。例えば、「やまなし」だとカワセミが出てきたときに使われて、「グスコブドリの伝記」では稲の病気の様子を表すときに使われていたよ。
- ・色彩語は自然の様子を表すときによく使われていると思った。自然の美しさを人々に伝えたかったと思う。
- ・生き方や考え方が伝わる表現もあったよ。「グスコブドリの伝記」では、自分が犠牲になっても皆のためになりたいという主人公の姿があった。「イーハトーヴの夢」にも書かれていたけど、ブドリの姿勢は、人のために力を尽くして農業のことを教えたいという賢治の生き方や考え方に似ていたよ。
- ・数々の作品を通して、賢治が伝えたかったことは、「人々のために何かに一生懸命になることの大切さ。」「自然は怖さや苦しさを与えることもあるけれど、命を与えたり美しさがあつたりする。」
- ・みんなで色彩語を集めたり、作品の共通点を見つけてみたい。もっといろんな作品を読んでみたい。
- ・「みやぎワード」のように、作者の独特な表現が、他の作者の物語にもあるのかな。
- ・友達は他にどんな作品を読んだのかな。友達が心ひかれた表現を知りたいな。